

年会費1000円でランチ250円若者支援基金

年会費1000円を掛けて250円でランチを食べられる「250にこまる食堂」が広がっている。単なる格安ランチではなく実は、年会費を積み立てた基金で、生きづらさを抱える若者の職業訓練などを支援するプロジェクトだ。そうした若者も勤める横浜市の5店で始まり、東京都内居酒屋が2月下旬に加わった。居酒屋の山本友大店長(32)は「最初は赤字になつても、とにかく多くの人に食べに来てもらつて社会貢献も商売も両立させたい」と意気込む。

【杉並区脈写真も】

「親子(井)オツケ」 「にこまる食堂」は、イー!」。威勢の良い店員 親子が設立した基金に年田駅前の居酒屋「叶え家」ショップトーニング費や(東京都大田区西蒲田7)運営費、新店舗設立資金のランチタイム。だのに充てる仕組み。非会員券のみで裏肉に牛軟骨が絡に上乗せされて50円も値む親子丼や、香ばしいカ付に回る。若者自立支援ソーカレなど6種類のメ活動を約20年間続けるKニユトが、どれか250 2インタナショナルジ円(非会員は300円) ャパン(横浜市磯子区)だ。山本さんは「せめてが昨夏、市内で自営する390円でやりたかつ好み焼き店やカフェ計5店で始めた。今では1

「にこまる食堂」に共感

横浜・K2インタナショナルが5店でスタート 東京の居酒屋も参加

日計約250~300食
が売れる。

5店は、長期間のひき
こもりや軽度の発達障害

になじみにくい若者の職業訓練や雇用の場でもある非会員にも250円で提
供する。彼らに飲食業について語り合つた。叶え家の
は2年前、K2スタッフで山本さん曰「100食」が目標だ。
250円の秘証は、人

も知り合つた。叶え家の
店員は特に問題を抱えた者や農家から仕入れる食
材の安さ。K2の場合、

一般企業端でない決意を感じに食
材も豊富だ。資材を要
けた自家栽培の白菜がキ
ムチや豚キムチ丼になつ
たり、柿やミカンが無料
で追加されたりする。

の岩本真実さん(39)は
で「仕入れ努力や営業努力
で成り立つ値段設定」と
言う。資材のおかげで収
益を出すことが十分可能
だという。また若者支援
だけではなく「誰でも安
心して温かくおいしく
いご飯が250円で食べ
られる場所を提供する社
会運動」として全国に広
げるることを目指してい
る。問い合わせ先はK2
(045・752・50
66)。



250円ランチに参加した山本店長(右から2番目)。
「元気になる居酒屋」が目標だ